

適切な水管理で品質・食味・収量の向上を！

平成27年8月10日
那須農業振興事務所経営普及部

**9月5～6日が収穫ピークになる見込み。
今後の高温によりさらに早まる可能性があります。**

本年の梅雨入りは6月8日（平年並）であり、梅雨明けは7月19日（平年より2日早い）でした。7月中は平年より気温は高く、日照時間と降水量は多く（大田原で+1.5℃、116%、142%）経過しました。

出穂期の生育状況は葉数は平年並、葉色は分施で淡く、全量基肥で平年並でした。管内の出穂期は平年より3～7日程度早くなりました。

成熟期は7月29日出穂期のコシヒカリで9月7日頃（平年より10日程度早い）と推定されます。※平年気温の登熟積算気温により算出

収穫期は成熟期前4日～成熟期後2日が収穫期に相当するため、収穫適期は9月3～9日頃と予想されます。ただし、今後の高温によりさらに早まる可能性がありますので、早めに機械の清掃・準備等を実施して下さい。



図1 水稻の姿(出穂期)

◎現在の生育状況（出穂期）

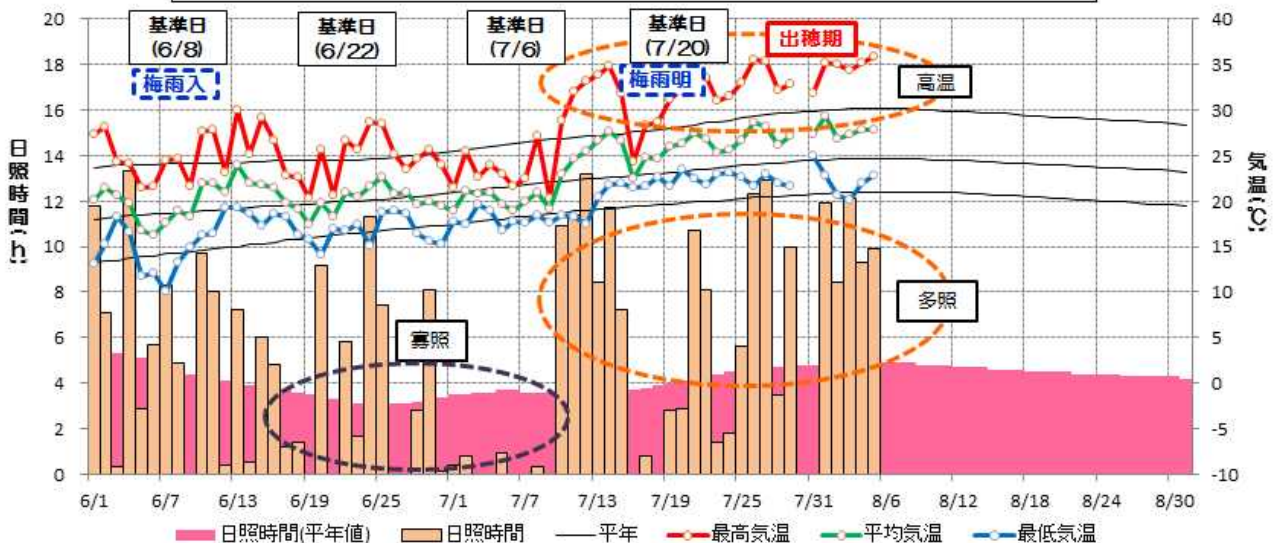
		移植日	出穂期	葉数	葉色		成熟期(予想)
					葉色板	葉色素計	
分施	27年	5/10	8/6	13.5	3.6	31.0	(9/18)
	昨年	5/10	8/5	12.7	3.4	32.4	9/20
	平年	5/9	8/11	13.2	4.4	32.8	9/27
	平年比・差	+1	-5	+0.3	-0.8	-1.8	(-9)
大田原	27年	5/1	7/29	13.1	4.2	32.3	(9/7)
	昨年	5/1	7/29	13.3	3.4	32.2	9/8
	平年	5/2	8/5	13.1	4.4	32.2	9/17
	平年比・差	-1	-7	±0.0	-0.2	+0.1	(-10)
全量	27年	5/6	8/1	13.0	3.9	30.3	(9/11)
	昨年	5/8	8/3	13.1	3.4	30.1	9/14
	平年	5/6	8/4	13.5	3.8	32.2	9/15
	平年比・差	±0	-3	-0.5	+0.1	-1.9	(-4)

- 分施（基肥＋穂肥）
那須町寺子内、大田原市桜木沢
- 全量（基肥一発：ひとふりくん1号）
那須塩原市一區町

※那須農業振興事務所調べ

◎気温と日照時間の推移（大田原アメダス）

気温と日照時間の推移（6～8月【大田原アメダス2015】）



◎今後の水管理

(1) 水管理

基本的には定期的な間断かん水を続けます。出穂期は最も水を必要とする時期(花水)です。「出穂後、最初の1週間で玄米の長さが決まり、その後の1週間(乳白米発生危険期)で玄米の幅が決まり、さらにその後1週間(千粒重確保期)に玄米の厚みが決まる」と言われています。この3週間のうちに水分が不足しないようこまめな間断かん水を基本の水管理とし、その後は徐々にかん水間隔を伸ばしながら地固めをしましょう。また、異常高温・低湿、強風・低湿などの時はそれぞれ状況に応じた水管理をしましょう(水利条件に応じて実施)。

ただし、高温時の常時たん水は根腐れの原因となることがあるので注意しましょう。

<高温・低湿>

出穂期から登熟期(特に登熟初中期)にかけての異常高温(高温・低湿)時は乳白米や胴割米が発生しやすいため、かん水又はかけ流しにより土壌水分が不足しないよう十分注意し、地温の低下、根の活力維持に努めましょう。

関東甲信地方1か月予報(気象庁、8/6発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は平年並、日照時間は平年並が多く、気温は平年並か高い見込みです。

【白未熟粒(乳白米)が発生しやすい基準温度】

出穂後20日間の最高	気温の平均	32℃以上
//	平均気温の平均	27℃以上
//	最低気温の平均	23℃以上

【胴割米が発生しやすい基準温度】

出穂後10日間の最高	気温の平均	30℃以上
------------	-------	-------



上：乳白米
下：完全米



断面

<強風・低湿>

高温のほか、風などによる急激な湿度低下なども乳白米・胴割米の原因となります。

台風が通過した直後は快晴で、気温も高くなりがちです。この時に乾燥した強風(フェーン)が吹くと、脱水による青枯症や、乳白米・胴割米の原因となります。台風通過後でフェーン発生が予想されるときは、水管理をやや深水とし、障害の発生軽減に努めましょう。



胴割米(精米)

落水時期は出穂後30日頃としましょう!

品質および食味向上の点から、早期落水は禁物です。その後も高温・多照が続く場合は走り水などを行いましょう。

(2) 病虫害防除

① いもち病

出穂期前後に日照不足及び降水量が多いといもち病は急速に発生が拡大します。

農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)発表による「平成27年度 病虫害発生予報 第4号」(平成27年7月17日)では、水稻いもち病の発生予想をやや少ないとしています。

現在の発生量は少ないですが、7月中に感染好適日が連続して出現していました。発生量は少ないものの一部で多発しているほ場もありますので、ほ場をよく観察し病斑が見られる場合には、穂揃期に穂いもち防除を行いましょう。



葉いもち

【粒剤】

効果が出るまで時間がかかるので、それぞれの薬剤の適期を確認して使用する。

【液剤】

出穂始め～穂揃期。降雨で多発の恐れの際は穂揃後7～10日後に予防効果の高い薬剤を追加散布。降雨が続く場合も、散布後3時間程度すれば効果が期待できるので、雨の止み間を見て防除を行う。

②斑点米カメムシ類

7月17日に農業環境指導センターから発生予報が発表になりました。今年は発生量が**やや多い**予想となっています。カメムシ類が水田内に確認できる場合は、使用時期（収穫前日数）などに十分注意し、防除を実施しましょう。



斑点米

※斑点米カメムシ類の防除適期
穂揃期と、その10日後頃の最低2回は薬剤散布を行う。



クモヘリカメムシ
(15~17mm)



ホソハリカメムシ
(9~11mm)



アカヒゲホソミドリカメ
(5~6mm)



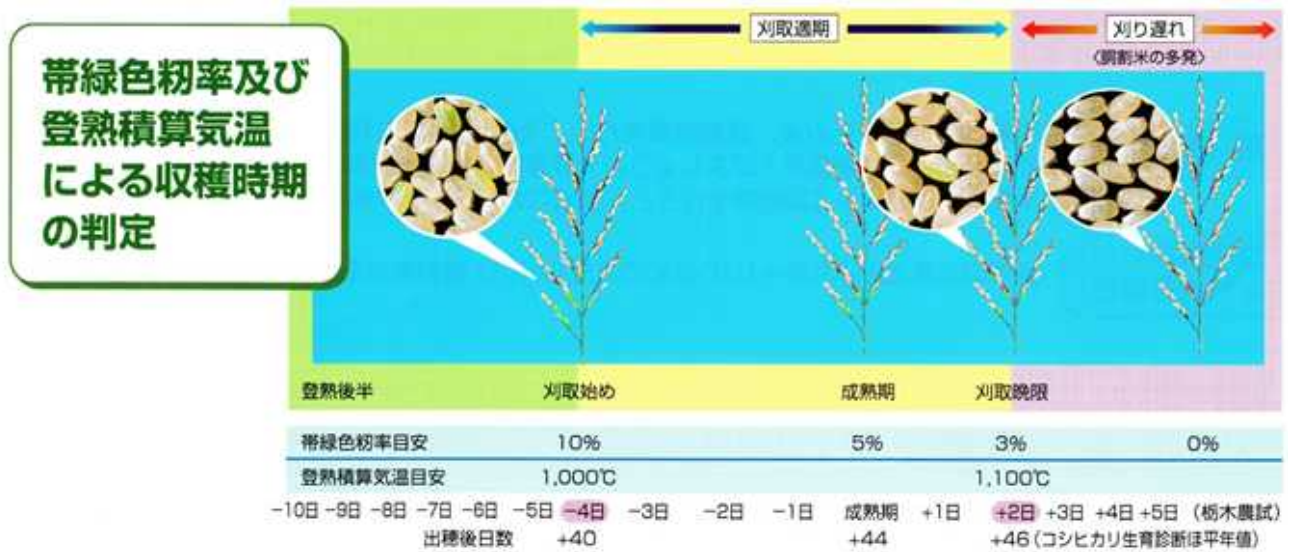
アカスジカスミカメ
(5~6mm)

(3) 適期収穫

☆ 収穫は帯緑色籾率10%から！！ ☆

- ・刈り遅れは、胴割米発生のおきな要因です。
- ・収穫は帯緑色籾率10%（黄化籾率90%）から始めましょう。
刈取適期は帯緑色籾率（穂の基の方で黄緑色をした籾の割合：不稔を除く）や登熟積算気温（出穂期以降の日平均気温の積算）で判定しましょう。
- ・登熟期間の気温が平年より高温に経過した場合は、登熟日数が短くなりますので注意が必要です。

【刈取適期】 帯緑色籾率：10~3% 登熟積算気温：1,000~1,100℃



早植コシヒカリの刈取適期幅は約1週間で、平年では出穂後40~46日後が目安です。

H26年産：8/1出穂の場合、登熟積算気温による刈取適期は9/12~16頃でした。(観測地点：大田原)